

二川校区に残る東海道のおもかげ

二川宿について

もとは二川と大岩とがべつべつに東海道のすじにできた町でした。ところが江戸時代のはじめごろ、参勤交代が行われるようになり、宿場としての仕事が重くなり、たいへんなので、1644年に二川と大岩はいっしょになって二川宿とよぶようになりました。このため、東問屋場と西問屋場がありました。

こうしてできた二川宿は、東から元二川村が東町・新橋町・中町・十七疋町と4つの町が並び、元大岩村は、西から茶屋町・中町と2つの町が並んで、合わせて長さが約1.3kmほどになりました。

江戸時代の終わりごろの二川宿の人口は、1468人、家の数は328軒で、本陣1軒、脇本陣1軒、問屋場2軒、はたご38軒がありました。そのほか、旅人たちを相手に商売をする家が30軒ほどありましたが、半数以上は農家でした。

商売をする家は、質屋、みそ屋、酒屋、居酒屋、荒物屋、魚屋、あめ菓屋、ふろ屋などがありました。

宿場の中心は二川中町で、ここに本陣や脇本陣・問屋場があり、はたご屋も大部分がここに集まっていました。この宿場の中心は、にぎわいをみせていましたが、はずれに行くにしたがって農家が増え、さびしくなっていました。特に、大岩方面は大部分が農家で、街道にそった家々の裏には、田や畑が広がっていました。

また、寺院や神社はすべて街道北側の町並みの裏の方にありました。街道の南側は梅田川が流れていて、土地が低いからです。

今でも二川には、宿場であったころの歴史的な建物や遺跡が残っていて、全国的にも貴重なものです。

①郷倉跡（大岩村）

郷倉は年貢米などをたくわえておいた村の共同の倉です。二川宿内には二川村、大岩村にそれぞれ1ヶ所ありました。

②枅形（新橋町の東駒屋前・中町の中原屋前の2ヶ所）

宿場や城下町の出入り口で、道をまっすぐ進めないように左右に道をずらしたものです。軍事上の理由のほか、大名行列の鉢合わせをふせぐなどのために使われました。

③秋葉常夜灯（二川八幡神社内・北裏の瀬古道・中町の中原屋の角の3ヶ所）

火事を防ぐ神様として古くからある秋葉山信仰の広がりによるもので、道しるべの役目をはたしていました。信仰や供養のため、人々が各地に灯籠を寄進したといわれています。一部は今でも時々点されています。

二川八幡神社の常夜灯は、新橋町の枅形南にあったものを移したものです。

④高札場跡（もとは中町の中原屋の角にあった。今は本陣資料館駐車場の奥に復元）

高札とは、きまりなどが分かるように、はり出したものです。幕府や大名が法令や禁令を掲示した所で、人目につきやすいところに設置されました。二川宿では二川・大岩の境の枳形南に東向きに建てられていました。

⑤二川宿本陣

大名や公家などの身分の高い人が休けいしたり宿泊したりするところ。本陣は宿場ごとに最低1軒は置かなければなりませんでした。

本陣の役をつとめることは、宿屋としてのもうけも少ないうえ、大きな家をいつもきちんと整備しておかなければならず、たいへんなことでした。しかも二川宿は、吉田と浜松という大きな宿場にはさまれていて泊まる大名が少なかったのです。また、大名が本陣を利用したときの宿料にはきまりがなく、宿をたつとき、わずかな心付けを置いていくだけでした。そのうえ、いっばんの旅人は泊めることができませんでした。

なお、東海道で本陣が残っているのは、滋賀県の草津宿と二川宿の2つだけです。

⑥はたご屋「清明屋」

ふつうの人々が宿泊した宿屋です。江戸時代のふつうの人々の旅のようすが分かるように展示がくふうされています。本陣とはたご屋の両方が見られるのは全国でも二川だけです。

⑦むかしの家の屋号

二川宿ふるさとづくり事業の一つとして、本陣の周辺にむかしの屋号が書かれた木の札がつけられ、むかしの町のように分けるようにしてあります。

⑧脇本陣跡

本陣に泊まる大名が重なったときに利用された。今は建物は残っていないが、間口約13m、奥行約35m、たたみの数は93枚でした。

⑨問屋場跡（日の出軒角）

問屋場は宿場町の中心で、つぎの宿場までの馬のつぎたてや荷物を運ぶさしずをしていました。今で言うところと駅にあたるようなところで、交通の大切な役目をしていました。また、いつでも幕府や大名の用事ができるように、馬や人の用意をしていました。

二川宿では二川・大岩の2ヶ所の問屋場が交代で勤めていました。

⑩商家「駒屋」（豊橋市指定有形文化財）

江戸時代後期の建物で、建てられたころの商家（商店）のようすがよく分かります。商家としては市内最古であり、市の有形文化財となっています。

田村家は商家を営むかわら、問屋役や名主などを勤めた二川宿の有力者でした。

⑪一里塚跡（東町のはずれ）

江戸日本橋より数えて72番目の一里塚です。今は残っていませんが、かつては街道の両側にあり、榎（エノキ）の木が植えられていました。